

青少年の家について

【設置目的】

青少年の健全な育成を図り、もって社会教育の振興に資するための施設として設置

香々地青少年の家（昭和48年8月開所）



九重青少年の家（昭和58年7月開所）



【施設概要】

宿泊室（定員：324人）
プラネタリウム館、食堂、
キャンプ場、プレイホール、
アスレチック広場、
海水浴場など

【施設概要】

宿泊室（定員：304人）
プラネタリウム館、食堂、
キャンプ場、プレイホール、
アスレチック広場、天体観測場、
多目的広場など

【前回までの推進委員会での意見】

○広報の改善・工夫が必要

- ・シニア世代や大学生へ伝わるよう改善が必要
- ・こども園や少年スポーツクラブ、老人会等幅広く広報が必要
- ・ネットやSNSの活用も必要
- ・他県と連携した広報が必要

○利用拡大について

- ・冬期の利用者数を増やす取組が必要
- ・教員研修の機会を増やすことが必要
- ・訪日する海外の生徒との交流ができる場に
- ・家族利用など広く地域に開かれた施設の姿が必要
- ・どのような冬場の活動ができるのか提示が必要

○計画に対する分析について

- ・成果と課題を委員会で報告

【青少年の家の機能】

学校支援機能	学校・学年・学級づくりにつながる集団宿泊活動
調査研究機能	不登校・発達障がい等の課題に対応した体験プログラムの開発と提供
指導者養成機能	体験活動の指導方法やリスクマネジメントを学ぶ教員対象の研修
体験活動提供機能	児童・生徒の発達段階に応じた多様な事前体験活動の提供

【大分県行財政改革アクションプランでの位置付け】

指定管理者制度や民間委託の導入・拡大

学校支援機能の維持に配慮した上で、閑散期の施設の運営効率の改善やサービスの向上、維持管理費節減を目指し、指定管理者制度を含めた民間活力の導入を検討

【昨年度以降の取組状況】

○広報について

- ・教育だよりおおいたやHP、SNSによる情報発信
- ・主催事業の早期案内
- ・ケーブルテレビによる主催事業案内
- ・九州内の大学等に案内書を郵送（県内は持参）

○利用拡大について

- ・4つの機能を強化し、利用拡大を目指した
 - 【学校支援】学校の教育目的に応じたプログラム提案
 - 【調査研究】市町村や大学と連携して不登校児童への自然体験活動を提供
 - 【指導者養成】教員や森林学習指導者向けの研修会実施
 - 【体験活動提供】シニア世代等を対象にした写真教室やノルディックウォーク、親子を対象として地域と連携した自然体験活動や天体観察会実施
- ・29年度の11月～3月の延べ利用者数は28年度比**842人増加**
出前講座などの延べ参加者数が1,567人増の一方で、寒波やインフルエンザの流行によるキャンセルの発生等の影響により、主催事業などの延べ参加者数が▲725人の減少
- ・30年度4月～8月の延べ利用者数は29年度比 **2,169人増加**

香々地青少年の家について

H29対前年増 目標：2,000人 → 実績 1,082人 (参考：対H27比較 3,723人増) (単位：人)

利用状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	合計
	27年度	4,082	2,889	3,186	5,992	4,156	2,467	22,772	1,893	966	1,380	1,854	665	1,140	7,898
28年度	1,452	3,203	3,325	5,375	4,504	3,476	21,335	1,699	1,059	1,694	2,673	1,781	1,439	10,345	31,680
29年度	4,786	3,306	4,841	5,995	4,714	3,711	27,353	1,817	1,765	2,607	2,593	1,579	1,184	11,545	38,898
H29-H28	3,334	103	1,516	620	210	235	6,018	118	706	913	▲ 80	▲ 202	▲ 255	1,200	7,218
H29-H27	704	417	1,655	3	558	1,244	4,581	▲ 76	799	1,227	739	914	44	3,647	8,228
30年度	4,482	3,519	4,891	6,059	5,288	4,870	29,109							0	29,109
H30-H29	▲ 304	213	50	64	574	1,159	1,756							0	1,756

H30年間目標利用者数 39,000人

取組内容

【29年度(下半期)】

- 広報活動の強化**
 - ・下半期事業のチラシを作成し学校等へ配付
 - ・豊後高田市CATVでの事業広報実施
 - 学校支援機能等の強化**
 - ・不登校傾向の生徒やフリースクールに通う子どもを対象に大分大学等と連携した自然体験活動を実施
参加者：50人(1泊2日3回)
 - 冬季利用増の取組**
 - ・ノルディック・ウォーク体験会(多世代対象)
参加者：525人(日帰り28回)
 - ・国東半島魅力発見写真塾(シニア世代対象)
参加者：34人(1泊2日2回)
 - ・特別企画 3回
参加者 192人(1泊2日1回、1日2回)
 - ・他機関や大学との連携(大分ジビエ振興協議会、県振興局、別府大学)
 - 冬期利用者(対28年度比)の減少について【要因】**
 - ・冬期の寒波、インフルエンザ流行の影響によるキャンセルの発生
 - ・本館宿泊棟の工事(9~12月)により受入規模を制限
- ※冬期利用者数【H27：6,005人→H28：8,646人→H29：9,728人】

多世代を対象としたノルディック・ウォーク体験会



特別企画
(施設開放デー)



【30年度(上半期)】

- 広報活動の強化**
 - ・豊後高田市CATVでの事業広報実施
- 学校支援機能等の強化**
 - ・新規活動 創作1 屋外1(幼保向け)
 - ・ふれあいキャンプ実施回数増(H29 2回→H30 4回)
 - ・集団宿泊活動を行う教員の研修会(2回)
- 利用拡大の取組**
 - ・他施設との連携(九重青少年の家・県立歴史博物館)
 - ・豊後高田市グリーンツーリズム推進協議会と連携した地引き網体験
 - ・シニア世代を対象とした国東半島魅力発見写真塾
 - ・登録数が86家族のファミリークラブを毎月実施(うち新規30家族)

児童生徒の不登校への対応「ふれあいキャンプ」



シニア世代対象の国東半島魅力発見写真塾



課題と今後の取組内容

- 【課題】
- 広報活動の強化**
 - ・HP、SNSによる情報発信の不足
 - 様々な団体の利用拡大**
 - ・他施設との連携不足

【対応策】





- 広報活動の強化に向けて**
 - ・SNSを活用し、活動状況を発信すると共に、旬の情報提供を行う
- 利用拡大に向けて**
 - ・別府公園を活用したノルディック・ウォーク体験会などを実施
 - ・かかぢフェスタなど、市や地域と連携した事業を実施すると共に観光協会と連携を模索
 - ・学びと健康の森を活用した冬季プログラムの新規開発(樹木の学習、週末スクール)
 - ・出前サポート強化

九重青少年の家について

H29対前年増 目標：1,600人 → 実績 ▲240人 (参考：対H27比較 2,289人増) (単位：人)

利用状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	合計
	27年度	7,048	5,469	3,270	6,710	6,776	4,892	34,165	2,684	1,243	2,032	2,593	2,070	1,820	12,442
28年度	2,620	2,061	2,273	6,070	6,528	3,624	23,176	2,483	2,064	2,562	2,930	2,337	2,394	14,770	37,946
29年度	8,318	6,557	3,536	7,158	7,576	5,169	38,314	3,180	2,652	2,229	2,599	2,148	2,419	15,227	53,541
H29-H28	5,698	4,496	1,263	1,088	1,048	1,545	15,138	697	588	▲ 333	▲ 331	▲ 189	25	457	15,595
H29-H27	1,270	1,088	266	448	800	277	4,149	496	1,409	197	6	78	599	2,785	6,934
30年度	8,325	6,116	4,657	6,805	8,814	6,803	41,520							0	41,520
H30-H29	7	▲ 441	1,121	▲ 353	1,238	1,634	3,206							0	3,206

H30年間目標利用者数 54,000人

取組内容	【29年度(下半期)】	九重の自然を活用した親子ネイチャートレッキング	【30年度(上半期)】	地域と連携したどろんこ田んぼ遊び
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○広報活動の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・下半期事業のチラシを作成し学校等へ配付 ○学校支援機能等の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・九州初！ネット依存者を対象に医師や大学と連携した自然体験活動を実施（3泊4日） ○冬季利用増の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ここのえ森林スキーチャレンジ <ul style="list-style-type: none"> 参加者：119人(2泊3日) ・親子ネイチャートレッキング <ul style="list-style-type: none"> 参加者：80人(日帰り1回) ・天体観測会 <ul style="list-style-type: none"> 参加者：15人(日帰り1回) ・ここのえ体験クラブ(日帰り3回) <ul style="list-style-type: none"> 参加者：59人 ○冬期利用者(対28年度比)の減少について【要因】 <ul style="list-style-type: none"> ・冬期の寒波、インフルエンザ流行の影響によるキャンセルの発生 ※冬期利用者数【H27：9,758人→H28：12,287人→H29：12,047人】 	 <p>ここのえ森林スキーチャレンジ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○広報活動の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・九州内の大学、専門学校へチラシを郵送 ・九州内で最も高地にある地域性を活かした部活動・サークル活動の誘致 ・ラジオのスポット放送 ○学校支援機能等の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・森林環境学習指導者の養成研修会（2回） ・初任者研修（教職員の宿泊体験活動の実施：2泊3日※下泉水登山道の開発） ・森林環境学習サポート(学校11校) ○利用拡大の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・九重ふるさと自然学校と連携したどろんこ田んぼあそび体験 ・くじゅうネイチャーガイドクラブと連携した親子くじゅう登山体験 ・ここのえオープンデー（他機関との連携） ・森林環境指導者による親子環境学習 	 <p>「ここのえオープンデー」 ※家族で宿泊もできます。</p> 

課題と今後の取組内容	【課題】	【対応策】
課題と今後の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○広報活動の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・HP、SNSによる情報発信の強化 ○様々な団体の利用拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・他施設との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○広報活動の強化に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・SNSを活用し、活動状況を発信すると共に、旬の情報提供を行う ・他県施設と相互連携した広報の充実を図る ○利用拡大に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・冬季耐寒トレッキングや春探しネイチャートレッキングなどを実施 ・冬のくじゅうの自然をテーマに野外プログラムの新規開発(雪山登山講座、野外泊講座)